

～Thank you～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 5. 9
No.1 文責 伊藤

若者の悩み

4月28日に学びカフェに参加しました。今回は「新年度を1か月過ごしてみよう」というトークテーマで1時間弱の話をしました。10歳前後も離れている2人の先生と一緒に自分を「若者」に括るのは大変申し訳ない気持ちですが、私と年齢が近い仲間があまりおらず、どちらかと言えばこちらの仲間に入りたいと思っているので大目に見てください。

コーディネーターである菅野先生の提案で、話す順番はじゃんけんて勝った人から話したい順番を決めることになりました。私は、選ばせませんでした。

最初に話す権利を得たのは「菅野先生」です。菅野先生は3年目とは思えないような落ち着きぶりで仕事をされていますが、今年度初めての高学年担任になり、戸惑っている部分もあるとのことでした。5年生担任と言うことで児童会担当にもなり、学校全体を動かすための子ども達の組織運営という部分でなかなか見通しが持てずに悩んでいるような感じでした。また、授業の進め方や学級経営についても本人は困り感を持っているようでした。（私が見るには、菅野先生も子ども達もいきいきしているように見えるのですが・・・）

2番目は「白田先生」です。白田先生は、大学を卒業されて、右も左もわからない中での1か月間だったかと思います。どうすると学級が落ち着いて学習できるか、大学では事務仕事については学んで来なかったのが年度初めは何をどうするのかわからない、というのが主な悩みだったかと思います。他にもたくさんあるのですが、「何がわからないのかがわからない」「何ができていないのかがわからない」といった状態のようです。すごくわかりますよね。私は、講師として働き始めてから12年目になりますが、年度初めは何が何だかわからなくて未だに眠れなくなることがあります。

最後は「私」です。私の悩みは、特別支援的な視点、個に応じた指導等です。2人の先生と違って私は持ち上がりで担任しているので、子ども達との関係性はある程度築けているように感じます。しかし、それが故に昨年度の自分の指導のツケが自分に回ってきているようにも感じます。見方や関係が固定化しているのだと思います。幸い、転入生と桃花先生という力強い助っ人が来てくれたので、少し改善はしそうですが・・・。

予測困難な時代、そして教員に対してマイナスなイメージがたくさんあふれている中で教育の世界に飛び込んできてくれた2人の若手です。ICT活用など新しく取り入れるべきことはお手の物です。たくさん引っ張ってもらいましょう。その代わりに、先輩方が築き上げてきた素晴らしい実践や技・テクニックを、どうか若者にたくさん教えてください。これからに向けて教育のリレーが上手くなされるよう、適材適所で頑張ってもらいましょう。